



2026 年 8 月 5 日

大学記者クラブ加盟各社

御 中

民放各社

土佐尚子のアート個展を京都市京セラ美術館で実施

～MoMA 収蔵作品から初公開の新作まで、
音・空気・振動・重力・流体が像を生む約 40 年の実践を総覧～

現代美術家で、京都大学防災研究所総合防災研究グループの土佐尚子特定教授は、「サウンドオブ生け花」に代表される土佐アートを用いて種々の個展・イベント・講演会・ファッションショー、そして防災アートを国内外で行い、土佐アートが表現する次世代の日本美・日本文化を国内外にアピールしてきました。今回、これまでの活動をまとめて、「現代美術家 土佐尚子」を内外にアピールすることを目的とし、2026 年 11 月 7 日（土）から 11 月 22 日（日）まで、京都市京セラ美術館本館 1 階「光の広間」にて、「現代美術家 土佐尚子展」を開催します。

つきましては、下記の通り記者会見を開催しますので、奮ってご参集ください。
本記者会見は事前申し込みをお願いしております。※申し込み期限：8 月 28 日（金）18 時まで

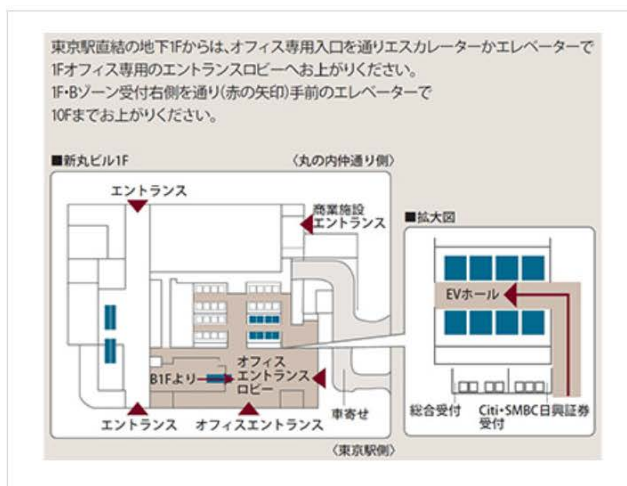
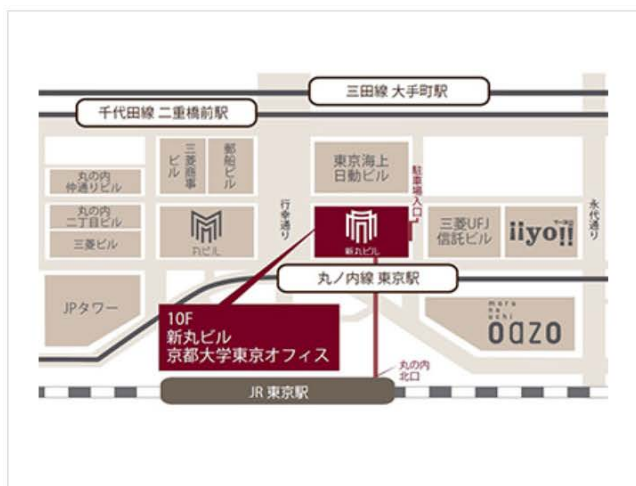
●参加申し込みフォーム：<https://forms.gle/B7m1QRcYeaNhdGSp7>
(QR コードは右記)

記

日 時：2026 年 8 月 31 日（月）午後 2 時～2 時 40 分

場 所：京都大学東京オフィス（新丸ビル 10 階）

交通案内：JR、東京メトロ丸ノ内線「東京駅」直結



東京駅新幹線ホームより徒歩 10 分。丸の内北口改札出てすぐ。

出席者：京都大学防災研究所総合防災研究グループ災害情報システム研究領域
特定教授 土佐尚子（現代美術家）
特任教授 中津良平（現代美術家 土佐尚子展実行委員長）
京大オリジナル 唐津讓治（司会）

MoMA収蔵作品から、新作《土佐琳派：気韻生動》までを一堂に公開

土佐尚子展



土 佐 尚 子 展

気韻生動《紅変身》2026の制作中

Spirit resonance 《Crimson Metamorphosis》

現代美術家 / NAOKO TOSA

自然が描き、テクノロジーが媒介する——京都市京セラ美術館で「日本の生成絵画」を問う

2026年11月7日 [土] —22日 [日]

午前10時～午後6時 | 月曜休館 | 入場無料

京都市京セラ美術館 光の間

主催 現代美術家 土佐尚子展実行委員会
後援 京都府、京都市
企画協力 京都オリジナル株式会社

協賛 株式会社ミマキエンジニアリング、有限会社グローバルステージ
協力 京都大学防災研究所 土佐ラボ、株式会社井上光雅堂、合同会社 サクララブズ

NAOKO TOSA
contemporary artist

From the work in the MoMA collection
to the new work 'Tosa Rimpa: Spirit resonance',
brought together in one place

November 7 [Sat]–22 [Sun], 2026

Kyoto City KYOCERA Museum of Art, "Atrium"

1. 個展の概要

京都大学防災研究所総合防災研究部門の土佐教授は、現代美術家として、自身の制作する「土佐アート」を通して、次世代の日本美や日本文化を国内外にアピールしてきました。

その活動はニューヨーク近代美術館（MoMA）に代表される国内外の美術館での作品の収蔵、文化庁文化交流使として多くの国々における土佐アートの展示と講演、ニューヨーク Times Square のイベントでの土佐アートの展示など多岐にわたっています。さらにはその延長として、土佐ア

ートをデザインとして用いたアートファッションの制作・展示を行うとともに、その一つとして防災機能を持つ防災ファッションの制作・展示を行うなど、活動の範囲を広げてきました。

今回これまでの幅広い活動を、音・空気・振動・重力・流体が像を生みアート作品を作り出す営みとして総括し「現代美術家 土佐尚子展」という形の個展として展示することとなりました。

本展は、1985 年に制作され、2011 年にニューヨーク近代美術館（MoMA）に収蔵された「An Expression」から、本展で初公開する新作「土佐琳派：気韻生動」まで、約 40 年にわたる創作の軌跡をたどる大規模個展です。

展覧会名：現代美術家土佐尚子展

会期：2026 年 11 月 7 日（土）～11 月 22 日（日）

開館時間：10:00-18:00

会場：京都市京セラ美術館 本館 1 階「光の広間」

入場料：無料

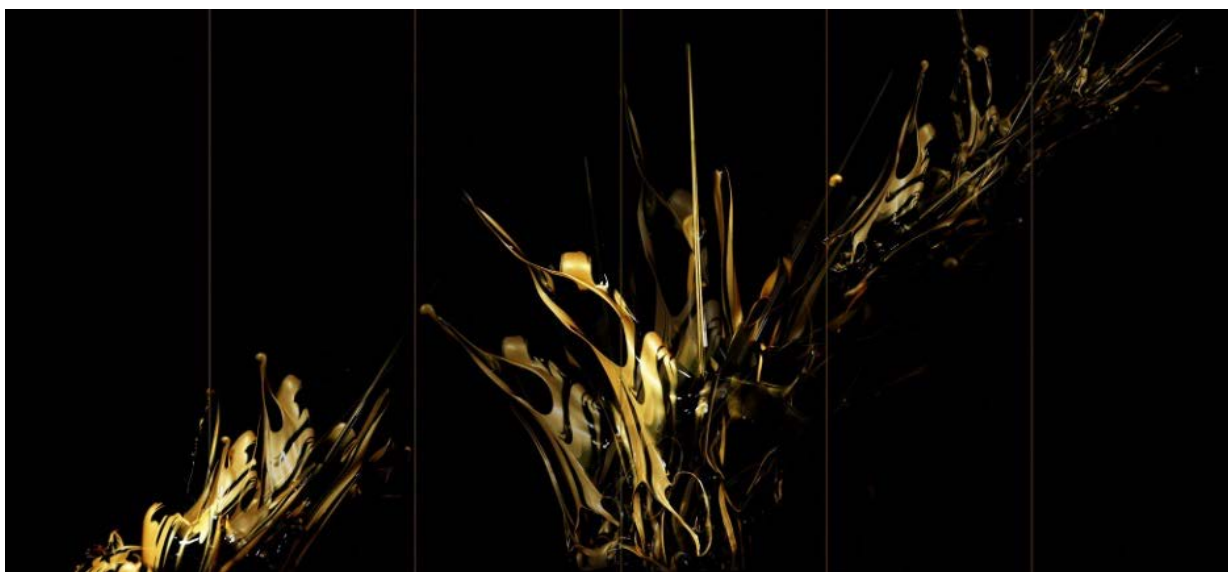
主催：現代美術家 土佐尚子展実行委員会、京都大学防災研究所 土佐ラボ

協賛：株式会社ミマキエンジニアリング、有限会社グローバルステージ

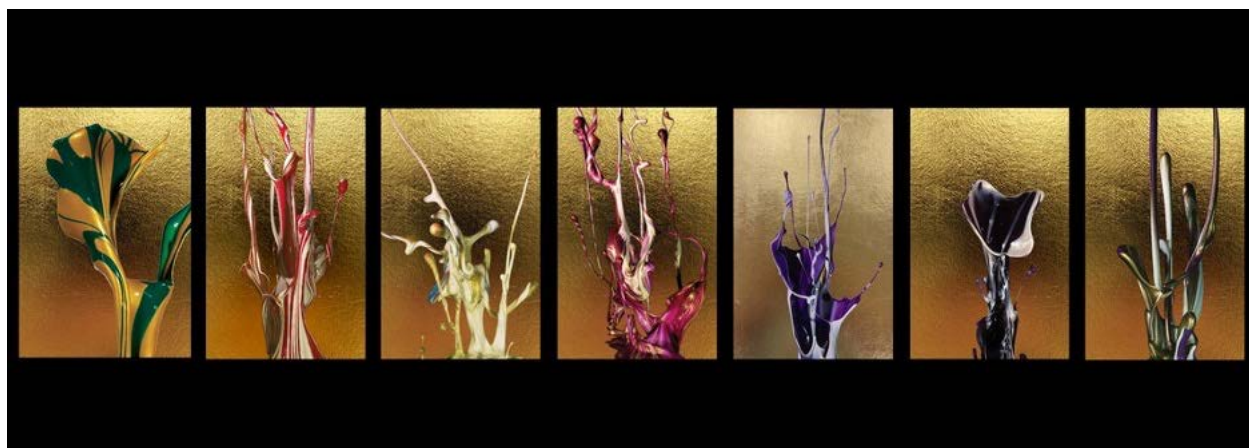
後援：京都府、京都市、

2. 個展のコンセプト

本展は、1985 年に制作され、2011 年にニューヨーク近代美術館（MoMA）に収蔵された《An Expression》から、本展で初公開する新作《気韻生動シリーズ》まで、約 40 年にわたる創作の軌跡をたどる大規模個展です。



※新作の音を可視化して表現した六曲一双の屏風作品：土佐の琳派を師叔した「風神」



※新作の音を可視化して表現した作品：土佐の琳派を師叔した「気韻生動シリーズ」30 点の内 7 点

今日、「生成」をめぐる議論が生成 AI を中心に展開される一方、土佐は 1980 年代から一貫して、感情、身体、音、自然現象、人工生命、カルチュラル・コンピューティングを横断しながら、像はいかにして生まれるのかという根源的な問いに取り組んできました。

土佐の作品において、作家は自然を描写するものではありません。音、空気、振動、重力、流体といった目に見えない力を作用させ、自然現象そのものに像を生成させます。そして、高速カメラによって、人間の眼では捉えることのできない一瞬を可視化します。

そこでは、カメラは単なる記録装置ではなく、筆に代わる制作装置となります。本展は、筆を介さずに日本絵画は成立し得るのかという問いを通して、絵画、映像、テクノロジーの境界を再考するものです。

土佐は、日本文化に内在する非対称性、余白、うつろい、気韻生動といった美意識を、様式として引用するのではなく、像を生み出す「生成の原理」として再解釈してきました。1980 年代のビデオアートから、音と流体による《Sound of Ikebana》、自然現象を扱う《Genesis》《うつろひ》、そして金地と生成する形態を結びつけた新作《土佐琳派：気韻生動》へ。その展開を通して、土佐が追究してきた「かたちが生まれる条件とシステム」を明らかにします。



《ECSTASY》1986

MoMA

Visit Exhibitions and events Art and artists Store



Naoko Tosa
An Expression
1985

Video (color, sound)

Japanese beauty as Capture of Nature



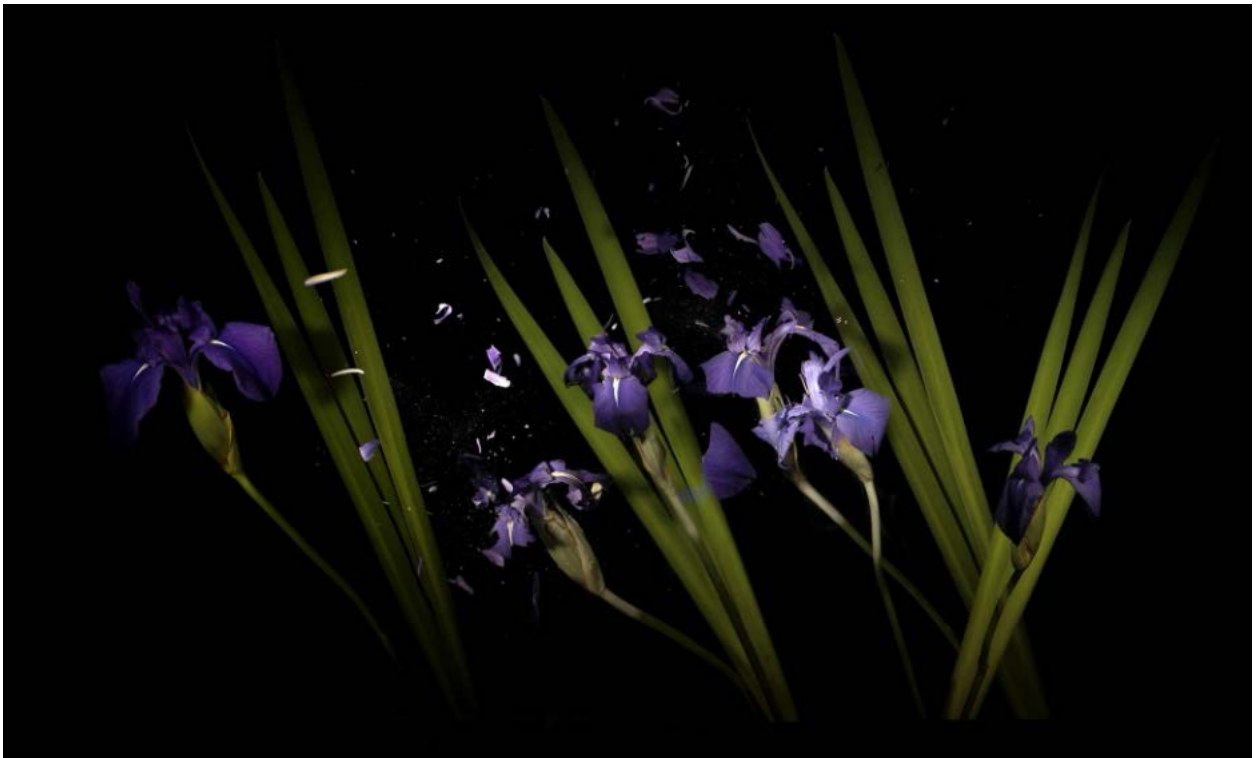
Sound of Ikebana



会場では、MoMA 収蔵《An Expression》、初期作品《ECSTASY》をはじめ、《Sound of Ikebana》《Genesis》《うつろひ》などの代表作を展示します。日本文化に蓄積されてきた生成的な知と現代テクノロジーを接続し、メディアアートによって日本絵画をいかに更新できるのかを問いかけます。



《Genesis》



《うつろひ》

3. 土佐のアート

土佐の関心は、一貫して完成されたイメージには向けられておらず、彼女が扱ってきたのは、音、身体、流体、重力、偶然といった、かたちが立ち上がる以前の力の動きそのものです。作品とは完成された対象ではなく、現象が発生するための条件であり、世界が生成する瞬間を経験するための場であると考えています。

1986年、MoMAキュレーターのバーバラ・ロンドンが企画した「NEW VIDEO JAPAN」への参加以降、土佐はビデオアート、インタラクティブアート、人工生命、カルチュラル・コンピューティングへと領域を横断しながら、生成をめぐる表象的实践を展開してきました。

本展では、「伝統」と「革新」を軸に構成された展示空間を通じて、日本文化の根底に横たわる生成の理論を現代美術の視点から提示します。



《山水》

4. 個展期間中のイベント TALK+

対談プログラム	
11.7 [土] OPENING	オープニング1部「アートは都市に生命を与えられるか」 10:30 am - 11:30 am 長谷川祐子（キュレーター）によるビデオメッセージ 大林剛郎（大林組会長（アートコレクター））×土佐尚子 オープニング2部 4:00 pm- 6:00 pm 太田梨紗子（美術史家）と土佐尚子（現代美術家）による展示作品説明 対談「京都から世界へー日本美術にとってのテクノロジーの使い方」 高橋信也（京都市京セラ美術館ジェネラルマネージャー）×土佐尚子
11.8 [日] CURATOR TALK	「人間と自然の関係を軸に美術史を考える」 2:00 pm - 4:00 pm アートの価値・テクノロジー・創造から考える TBA ×土佐尚子
11.14 [土] FUTURE	「アートは未来を発明できるか」 2:00 pm - 4:00 pm 伊東順二（美術評論家）×土佐尚子
11.15 [日] RWPA	「自然は絵を描けるか」 2:00 pm - 4:00 pm 長谷川等伯・琳派から、土佐尚子の「生成する日本絵画」へ Frank Feltens（シアトル美術館チーフキュレーター）×土佐尚子 * 同時通訳付き
11.21 [土] AUTHORSHIP	「作者は、どこにいるのか」 2:00 pm - 4:00 pm 脳・身体・自然現象・テクノロジーと創造主体 石津智大（神経美学研究者・関西大学教授）×土佐尚子
11.22 [日] IKEBANA	「いのちの一瞬を、どう生けるか」 2:00 pm - 4:00 pm 池坊いけばなと《Sound of Ikebana》——花・時間・自然のかたち 池坊専好（池坊次期家元）×土佐尚子

5. 京都市京セラ美術館

1933(昭和8)年、「大礼記念京都美術館」の名で開設され、現存する日本の公立美術館建築の中で最も古い京都市美術館。2020年のリニューアルを機に、京都画壇の日本画など京都が誇る名品を広くご紹介する「コレクションルーム」を新設しました。また、現代アートを中心に多様な展覧会を開催する新館「東山キューブ」を整備し、この間、民間部門の力を活用しながら展覧会を企画運営。新進作家を支援する「ザ・トライアングル」、「学び合い」をキーワードにしたラーニング・プログラムなども展開し、美術館の魅力や価値向上を実現してきました。

リニューアルから5年目を迎え、2025(令和7)年4月には、美術館活動の基盤をなす学芸部門を直営に一元化し、さらなる企画力の強化を図った。同時に、広報や資金調達等の業務は引き続き民間部門と連携し、より効果的・効率的な館運営に努めています。

6.土佐尚子

1961 年生まれ、ニューヨークと京都を拠点に活動。

1980 年代初頭、アーティスト中谷芙二子が設立したビデオギャラリーSCAN で開催されたビデオアートの公募展で 2 つの賞を受賞したことをきっかけに現代美術家のキャリアをスタート。

初期のキャリアでは、ビデオアート、インタラクティブアート、AI を通して、音、身体、無意識の関係性を探求。1997 年にロレアル大賞グランプリを受賞し、2004 年にはユネスコとの関連で ZENetic Computer が高く評価される。

その後、バーバラ・ロンドンがキュレーションを務めたニューヨーク近代美術館 (MoMA) での展覧会「NEW VIDEO JAPAN」で国際的なデビューを果たした。

土佐は、宇宙における「生成の原理」に焦点を当て、日本の美意識を構造として再解釈する手法である「カルチュラル・コンピューティング」を提唱した。土佐作品の特徴は、創造と研究の間を行き来しながら、音、身体、自然現象に隠された日本美をテクノロジーを用いて形態を取り出し、作品に結集したことにある。

1990 年代：武蔵野美術大学映像学科で教育に携わる傍ら、ATR (国際電気通信研究所) でメディア統合とコミュニケーションに関する研究を行う。

1999 年：人工知能を用いた感情音声対話に関する研究で、東京大学より工学博士号を取得。

2001 年～2004 年：マサチューセッツ工科大学 (MIT) 先端視覚研究センター (CAVS、現在は芸術、文化、技術の MIT プログラムとして知られている) で、アーティストフェローとして芸術とテクノロジーに関する研究を行った。この期間に作品「ZENetic Computer」を制作した。

2005 年～現在：京都大学にて教育・研究に従事。現在は防災研究所 (DPRI) にて、流体を用いた自然現象と人間との関係性に関する表現について研究中。

2025 年大阪・関西万博の Future Life Experience パビリオンにて、体験型作品 Zero Gravity Art を常設展示。

2026 年 2 月 Japan Society NY で伝統的な日本の美意識を最新テクノロジーにより構造化し、普遍的な情動や祈りの表象へと昇華させた「カルチュラル・コンピューティング」の実践としてコスチュームを創作したパフォーマンスを実施。



2016 年には、文化庁から 2016 年度文化交流使の任命を受け、8カ国 10 都市を表敬訪問。その中で訪れた NY ではタイムズスクエアで Sound of Ikebana(Spring) を発表し、文化交流として都市空間における生成型ビデオ表現の可能性を示した。

